日本語でイスラームとハラールを知る

イスラームについての、よくある疑問に答える。

（日外協オープンセミナー（９月に２回にわたり実施）から抜粋）



講　師　NPO 法人 千葉イスラーム文化センター　理事長
博士　杉本 恭一郎 氏

第１回　イスラームを知る

ステレオタイプを超えて

イスラームの教えはテロを正当化しない。クルアーンには「人ひとりを殺す者は全人類を殺したに等しく、人ひとりの命を救う者は全人類の命を救ったに等しい」とある。イスラーム学者はIS（イスラーム国）の思想・行動は教えに反すると批判する。20億人超のムスリムは多様な人々であり、先入観に基づくステレオタイプの見方は避けたい。

「アッラー」「クルアーン」「ムハンマド」がイスラーム理解の重要なキーワードとなる。

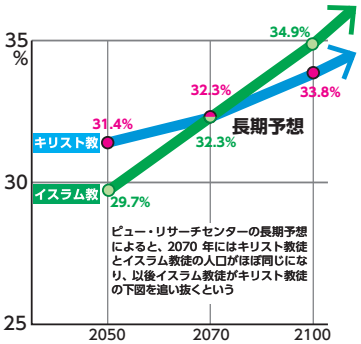
アッラーは唯一の創造主であり、唯一の崇拝対象。クルアーンは「彼らがアッラー以外に祈るものを罵（ののし）ってはならない」と教え、他宗教への敬意と共存の重要性を示している。

また命・能力・環境等は全てアッラーの恩恵であり、それらをどう用いて生きたかが問われる「審判の日」が来世にあると教える。来世の救済を願い、アッラーの赦（ゆる）しを求めて「六信五行」を重視する。「六信」とは、アッラー、天使、啓典、預言者、来世、天命を信じること。「五行」とは、信仰告白、礼拝、施し、断食、メッカ巡礼を実践すること。クルアーンは人間の弱さや利己心を指摘し、行動規範を示す。ただし、信仰は強制されず、個人の自由意思が尊重される。

預言者ムハンマドの言行（スンナ）はクルアーンの実践例。「天国は母親の足元にある」と伝えられ、親への感謝と孝行の大切さを教えている。

世界宗教としてのイスラーム

ムスリムは中東をはじめ、インドネシア、インド、パキスタンなど、アジアに多い。2050年には世界人口の約30％に達するとの予測がある（**右図**）。日本では約30年間で３万人から約42万人に増加したと推計されるが、Ｇ７諸国内では割合が低い（フランスは約600万人、カナダは約200万人）。



（出所：講演資料から抜粋）

ユダヤ教徒 キリスト教徒との関係

イブラーヒーム（アブラハム）の２人の息子のうち、イスマーイールはアラブ人や預言者ムハンマドに、イスハークはヤアクーブやモーセ、イエスにつながる系譜とされている。

ウマルがカリフ（最高指導者）だった頃（７世紀）、エルサレムがイスラーム勢力の支配下に入り、キリスト教徒やユダヤ教徒の生命・財産が一定の条件の下で保護された。クルアーンには「アッラーが人々を互いに抑制されなければ、修道院も教会も礼拝所も破壊されていたであろう」とあり、他宗教の礼拝所の保護を説く。

スンナ派とシーア派との関係

スンナ派とシーア派の分裂は、預言者没後の指導者の正統性をめぐる対立に端を発し、アリーの支持者を中心とする運動と、カルバラー